

常陸大黒の紙ポット移植栽培による 土壌病害被害軽減と収量性

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター農業研究所

ベニバナインゲン「常陸大黒」を紙ポット(Wポット、Hポット)で育苗し、ポットごと移植すると土壌病害被害軽減効果が得られ、発病による収量減を防止できます。また、両ポットを用いた移植栽培の収量性はほぼ同等です。

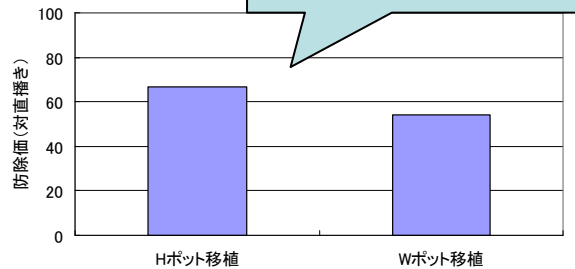


紙ポット育苗法

- ①紙ポットにはWポット7.5号あるいはHポット24を 사용합니다。
- ②ポットに市販の園芸培土を八分目程度詰めてから種子の目の部分を下に向けて播種し、7~10日育苗します。本葉が展開した時が定植適期です。
- ③育苗の際、紙ポットからの発根や病原菌の感染を防止するため、ポットを直接土壌の上に置かないで水稲用育苗箱等に並べて育苗管理します。
- ④育苗期間は10日以上経過すると主茎が伸長して隣接苗とからまるので、長期育苗は行いません。

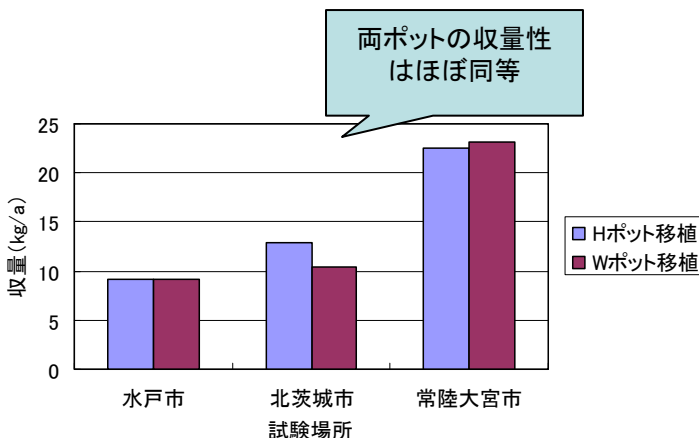


紙ポット移植栽培は直播き栽培に比較して土壌病害の被害を軽減できる



紙ポット移植による白絹病防除効果

紙ポットの収量性比較



各試験場所の紙ポット移植栽培常陸大黒の収量

留意事項

- ①定植にあたっては、紙ポット内に圃場の汚染土壌が入らないように注意するとともに、ポット内土壌表面の位置が圃場の土壌表面よりやや高くなるようにポット苗を設置します。
- ②10a当たりの紙ポットと園芸培土の費用を試算するとHポットはWポットに比較して2,113~2,774円安いです。